### boxplot

箱ひげ図（ボックスプロット）の描画に必要な最小値、最大値、四分位数を算出します。

#### 構文

boxplot EXPR [by GRP\_FIELD, ...]

必須パラメータ

**EXPR**

統計対象となる計算式を入力します。

オプションパラメータ

**by GRP\_FIELD, ...**

箱ひげ図の対象となるフィールド名を指定します。グループ単位で最小値、最大値、四分位数を算出したい場合、グループ分けの基準となるフィールド名をカンマ（,）区切りで指定します。このby句はEXPRの直後に記述してください。

#### 説明

出力フィールドは以下の通りです：

1. **count**: GRP\_FIELDごとのレコード総数。GRP\_FIELDを指定しない場合は全体のレコード数。
2. **GRP\_FIELD**: by句で指定したグループキーの値
3. **iqr1**: グループごとの第1四分位数。中央値を基準とした下位50%の中央値、全データの下位25%
4. **iqr2**: グループごとの第2四分位数（中央値）。データを昇順に並べた際の中央の値
5. **iqr3**: グループごとの第3四分位数。中央値を基準とした上位50%の中央値、全データの上位25%
6. **max**: グループごとの最大値
7. **min**: グループごとの最小値

#### 使用例

全体のCPU負荷に関する統計サマリー

table sys\_cpu\_logs | eval usage = kernel + user | boxplot usage

日別CPU負荷に関する統計サマリー

table sys\_cpu\_logs | eval day = string(\_time, "yyyy-MM-dd") | eval usage = kernel + user | boxplot usage by day